

ただ研究室のメインの研究テーマは「低次元伝導体」というような非常に難しい物質を扱っています。例えば、電気伝導で言えば金属、絶縁体その中間に半導体があるわけですが、極端に異方性の強い結晶構造をもった物質（低次元伝導体）の極低温域、超高圧、高磁場の下での抵抗率、磁化率あるいは熱伝導度というような物性が著しく変化するのですが、実のところまだこのような分野の研究に脚光が浴びたのは比較的新しいとのこと。

私なんか良く言うんですけども『じゃあそれが産業界にどんなメリットがあるんですか』なんて聞いてみたんですが、やばな話でしてね。『そんなこと聞くな』ということをよく言われるんですよ。これは、30数年間も企業にいた習性が抜けられないわけです。何かしていると、それ一体何の役にたつんですかとか、何かパテントでも取れないんですか、とかいうようなアホなことをいうもんですから、時々先生からお叱りをうけるんですけども。そんなことで、まだ体の続く限り頑張っていきたいというふうに思っています。長い話でどうも申し訳御座いませんでした。

いずれまた研究途中報告なり研究成果なりを会報にお寄せいただきたいと思いますのでよろしくお願いたします（坪井）

あの一、今井先生からメールをいただきまして、6ヶ月に一回「会報」に報告せよと言われておりまして。ついこのあいだ集中講義がありまして、北海道大学の山谷和彦先生^(注2)という方がわざわざ大阪府大大学院まで来ていただき低次元伝導体物性の特別集中講義がありました。レポート提出したら2単位あげるよということでそのレポートが未だに出せないで村田先生からおまえ何をしとるんだ、と、こう言われておりますので、ちょっとそのへんはご勘弁していただきたいと思いますが（多村）

おいおいよろしくお願したいと思います（坪井）

「注1」 エドワード・デミング博士：1950年、戦後間もない日本が招聘。戦後の技術者、企業経営者に対し市場から長期的に利益を生むには品質の高い製品が必要であることを強調した。1951年、優れた製品を生み出した企業に授与する「デミング賞」を創設。

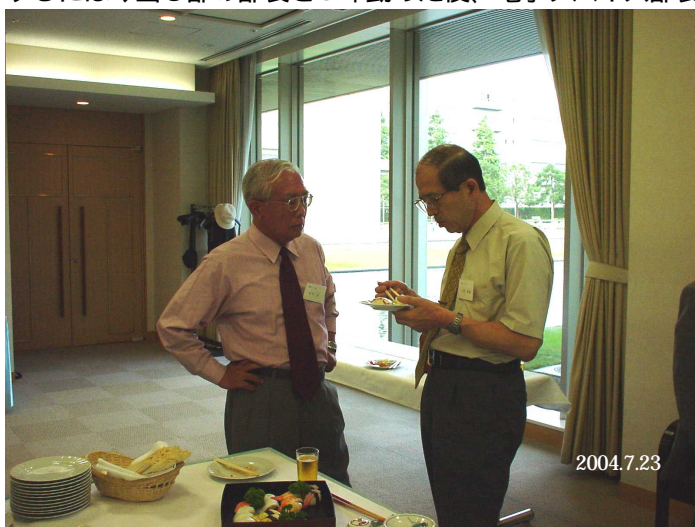
「注2」 北海道大学大学院・工学研究科教授

3-5. 小野雅敏様

今、お話に出てきましたが、大学時代は数学が苦手が多村さんにいろいろ教えてもらったり、お世話になったこともありました。

私は運良く早稲田の大学院へ2年間通ってから、電気試験所に入りました。その時は真空技術研究室でしたが、後で電子技術総合研究所の宇宙環境技術研究室に名前が変わりました。その後、極限技術という真空・宇宙、超伝導マグネット、極低温冷凍機、レーザ核融合など、普通の分類に入らない技術を扱う極限技術部、要するにはみ出し部の部長を5年勤めた後、電子デバイス部長を2年間やってから東北の工業技術研究所に5年勤めました。その後の5年間、今年の1月までは情報処理振興事業協会、略称IPAというコンピュータウイルスの届け出などをやっているファンディングエイジェンシーにいました。

それから3ヶ月間休んで、船井電機の子会社で船井電機新応用技術研究所に勤めています。電卓、太陽電池、液晶などの開発をされ、シャープの副社長だった佐々木 正さんという89歳の方、今井先生をよくご存知だという方ですが、その人がナノテクの研究所を作るという話がありました。そして、佐々木さんが社長、私が技術の責任者となり、研究者が8人ほどという小さなグループが揃い、道具が入りだしたところです。



これまで私は国立の研究所で、比較的シーズに近い仕事をやっていました。今井研のときもそうでしたが、実験の結果としてデータがでてくるのも面白いのですが、装置をいじっている方が好きだったのです。好きな

ことができるというお誘いだったので志願した訳です。川崎の旧日本鋼管の研究所であった、レンタルの研究室に入っています。今は8人の面倒をみるということで、ようやく先週テーマの設定が終ってほっとしたところです。多村さんがおっしゃるような、何の役に立つかという方から発想してシーズを見る、という仕事これからメインになると思います。出口を考えて元へ戻るといふ、今までとは逆の方向で考えてみる発想をこれから練習しようと思っています。

また、いろいろの分野で活躍されている方が、皆さんをはじめ沢山おられるので、お教ををいただいてなんとか最後のご奉公をしたいと思っています。多分2年から5年が一つの区切りだと思っています。

今日は親会社の技術役員が来て会議があり、少々遅刻をしました。来年は多分、若い人に任せることができるようになって、この懇親会に悠々と出席したいと思っています。よろしくお願ひいたします。

僕が大阪で勤めていたときにお世話になったことがあるんですね。実験装置を借りに行ったときに「小野さん知ってますか」といわれて、「本当は有料なんですけれどもご存知だったらもう取るわけにはいきません」、なんて言われてましたね(多村)

結構難しいオージェ効果の若手の権威者で、僕が応用電子物性分科会の幹事長のとき、講師として呼んでオージェ効果の説明をしてもらったのを今でも覚えていますよ。大先生なんですから。それから、超高真空や超が付く技術を色々手がけて、電子デバイスの部長をやったわけですね。当時の電総研の部長というのは帝大出が多いところを、早稲田出の異色の存在でしたね(今井先生)

(「会報掲載」に当っての補足:「佐々木 正さん」といえば「シャープの佐々木さん」としてよく知られている。もともとは、関西の名門企業で、「江崎玲於奈さん」・「有住徹弥先生」、さらには最近青色発光ダイオードで有名になった「赤崎 勇さん」などもおられた「神戸工業(株)」(旧川西機械(株)その後、富士通に吸収合併)で活躍された。戦中戦後を通じ、ここでは真空管の製造をやっており、戦後、電気試験所電子管部で有線通信管の長寿命化対策に悩まされていた頃からの古いお付き合いである。今井)

3-6. 高井 謙次 様

昭和41年卒業の武蔵工大出身です。前回の会報で今井先生がお書きになっております、今井先生のご先輩にあたる中村新太郎先生が私どもの大学の研究室にいらっしゃいました。この中村先生は非常に気骨のある方で、野武士といった表現は一寸不適切かも知りませんが非常に筋の通った、物事のメリハリをきちっとされる方で、その誠実さは今井先生にも合い通じる方ではないかと思うのですが、その中村新太郎先生のご推薦で一年間今井研究室でご指導いただきました。この一年は決して長い期間ではないと思うのですが、今井先生を始め直接ご指導いただいた佐藤先生、同室の先生方の真摯な研究態度や研究への取り組み方など一生忘れられない貴重な体験でした。

この今井先生を囲む懇親会が一昨年来3回も継続されるというのは今井先生のお人柄と同時に、幹事さんの力が非常に大きいと思います。たまたま私は41年に大学卒業後KDDに入りましたが、KDDの同期会はいまもって毎年一回続いています。ここ数年間は七夕の前後ということで、今年も7月14日に集まりました。それもやはり面倒見の良い幹事の方の尽力のお蔭です。

個人的にはこの種の会合の意義の一つには次のことがあるのではないかと考えております。私はKDDとDDIの合併した時を契機に、一年半ぐらい早めに退職しまして、去年の一月ぐらいまで先輩のコンサルタント会社を手伝っていたんですけども、それも一段落しまして、今はリタイアし、いわゆる晴耕雨読の生活をしております。このようにリタイアしますとやっぱり外部との情報交換が徐々に不足してきます。KDDの同期会などでいろいろ出席者の現況を聞きますと、非常に良い刺激になりますし、自分の将来に対し参考にもなります。本日の懇親会でも、先ほどの現役で活動している皆様の状況や、すでにリタイアされている方の最近の過ごし方を聞きま



すと、自分の将来のあり方に大きな示唆となり、いろいろなヒントになります。そういう点で私にとってこの会は大きな意義があると思っております。

先ほど坪井さんから本日の懇親会の近況報告についてその要約を会報に載せたいというお話がありましたが、



佐藤秀吉さん宅にて（昭和41年3月16日）

左より高井、佐藤先生、斉藤、鈴木（威）：「斎藤アルバム」より

大変結構なことと思っております。本日たまたま参加出来なかった方達にとっても、本日の出席者の方達の活動報告などは非常に参考になると思います。

私、今井研究室では佐藤秀吉さんに直接のご指導を受けたんですけども、先ほどの資料（近況報告）に佐藤さんは現在体調を崩されて思わしくないと書かれていました。当時を振り返りますと、私共が佐藤さんからご指導を受けていた丁度昭和40年に、佐藤さんがご結婚されました。私達直接佐藤さんからご指導を受けていた連中が心ばかりの結婚祝を差し上げたところ、その答礼として佐藤さんのご自宅に招いていただきました。その時佐藤さんの奥様の手料理をご馳走になって楽しく懇談させていただいたんですけども、そ

れが昨日のように思い出されます。なんとか奥様のためにも、佐藤さんに良くなっていただけたらと願っております。近代医学は年々進歩しているはずですから、なんとか解決方法が見い出されるよう祈っております。

私の近況については特にご披露することはないのですが、昨年の11月に長男が結婚しまして、家を離れて独立したので、これで親としての一定の役割を果たしたとホッとしております。一方、母親が高齢になって、段々老化が進み今年の7月に白内障の手術をしました。いよいよ私にとっても老人介護問題が徐々に身近になってきました。介護については他人に任せるだけでなく、身近な肉親が世話するのが一番だという風に聞いているんですけども、その精神的、肉体的負担というのは結構大変なものだということを実感しつつあります。これから介護問題について少し勉強しなければと思っております。

余暇の楽しみ方としては、ゴルフやコントラクトブリッジの他、週一回インターネットで友人と囲碁を打っております。

本日出席させていただき、現役でご活躍中の皆様の大変有意義なお話をお聞きして、私もまだ完全にリタイアするのは早いかな、これから少し将来について見つめ直す必要があるかなという気になってきました。

（塚本さんは高松に戻るため、この時点で退席されました（18:00））

高井さんは鈴木さんと一緒になって卒研をやっていたのですが、卒研論文のファイルを会報に出し損ねました。機会をみて復活させたいと思っております。KDDでは研究所長だったんですか（今井）

KDDでは伝送課長をやって、それからKDDのローマ事務所長をやりまして、退職するときはKDD総研の常務取締役をやりました。

ローマの事務所はリエゾンオフィスですから、所長と所員と秘書の3人という小所帯ですが、3年10ヵ月勤務しました。家族帯同で赴任したのですが、日本では経験できないような貴重な体験をしました。家族、特に中学3年の長男と小学校4年の長女は、出発するときは行きたくないといっておきながら、帰って来る時にはもっといたいと不満を言っておりました。これくらいの年齢の子供は非常に早く外国生活に順応するものだとおどろかされました。

日本に帰ってきて長女には日本の学校に溶け込めないというような、後遺症みたいなことがありました。ローマでは米国系のインターナショナル校に入れたんですけども、スクールライフは個性を尊重するとともに比較的自由的な学校生活でした。それが帰国後、日本の学校では校則で色々制限があるし、制服が決められているし、髪型も決められており制約事項にあふれていました。そのわずらわしさと、先輩と後輩の関係だとかでちょっとナーバスになったようです。向こうの学校ではそういう点で非常に自由でした。海外勤務者にとって子供の教育がかなり負担になることがわかりました。（高井）

高井さんのご提案は、いままでの近況報告は別刷りで会報と共にお送りしていたんですが、近況報告はむしろ会報の一つの柱として皆様にお伝えしたらどうか、というご意見なんですね。大変いいお話だと思いますので、今日のを含めて会報第5号と第6号に分けて、今回の近況報告を掲載しようかと思っております（坪井）

この会の最初に「会報」に反応がない、というようなことをちょっと言いましたが、近況報告を見ると決して無関心ではないという事が判ります。色んな事情があって出席出来ないという事や、関心を皆様が持っていてらっしゃるという事もよく判ります。いいご提案だと思いますね（今井）



後列左から

坪井 孝光、高井 謙次、伊藤 恭弘、佐々木 龍二、小野 雅敏、斎藤 哲也、鈴木 威一
前列左から

塚本 一義、 多村 卓、 今井 哲二 先生、 島田 慶甫 研究員

4. 第三回 懇親会 の 決定事項等

懇親会での主な報告事項と決定事項はつぎの通りです。

1. 会計報告 2004.5.26 現在 残金 92,230 円（ 末尾の付表参照 ）
2. 次回懇親会 2005・7・22(金) 16:00 ~ 19:00 「 華迎 」にて開催の予定
3. 「 会員からの近況報告を会報の柱の一つとする 」ことが決定
4. 次年度の幹事（ 小野雅敏、 斎藤哲也 ）及び編集担当（ 坪井孝光 ）は全員留任
5. 住所録一覧の「 卒順04今井研卒研究生の会 」は別表（ 会報に別添付 ）